2024　年度 授業計画(シラバス)

| 学　科 | 柔道整復スポーツ学科 | | 科目区分 | 専門分野 | 授業の方法 | 実習 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 科目名 | 固定法Ⅳ | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30　(1)　時間(単位) |
| 対象学年 | 2年生 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 第2校舎3階実技室 |
| 担当教員 | 尾藤何時夢 | 実務経験とその関連資格 | 柔道整復師として30年勤務(昭島名倉堂接骨院4年、名倉堂尾藤接骨院18年、養成校等の附属接骨院8年)講義内容である柔道整復業務を行っていた。 | | | |

《授業科目における学習内容》

柔道整復師として求められる外傷整復固定法実践実習演習とする。

《成績評価の方法と基準》

期末試験評価:100%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

柔道整復学理論編(全国柔道整復学校協会編集)
柔道整復学実技編(全国柔道整復学校協会編集)
参考資料:必要に応じ作成した資料を使用する

《授業外における学習方法》

実技した内容を反復して練習する。

《履修に当たっての留意点》

実技項目については反復的に行うことにより身につける。

| 授業の方法 | | | 内　容 | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第1回 | 演習実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 柔道整復師として求められる固定法実技実習知識と技能を習得する | ガイダンス用資料<br>①柔道整復学・理論編第6版<br>②柔道整復学・実技編第2版<br>③配布資料 | 事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと |
| | | 各コマにおける授業予定 | 前期授業内容のガイダンス<br>手指の解剖と手指捻挫打撲等の固定法(包帯とテーピング) | | |
| 第2回 | 演習実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 柔道整復師として求められる固定法実技実習知識と技能を習得する | ①柔道整復学・理論編第6版<br>②柔道整復学・実技編第2版<br>③配布資料 | 事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。<br>実技項目については事前に反復練習を行う。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 手指骨折脱臼の固定法① | | |
| 第3回 | 演習実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 柔道整復師として求められる固定法実技実習知識と技能を習得する | ①柔道整復学・理論編第6版<br>②柔道整復学・実技編第2版<br>③配布資料 | 事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。<br>実技項目については事前に反復練習を行う。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 手指骨折脱臼の固定法② | | |
| 第4回 | 演習実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 柔道整復師として求められる固定法実技実習知識と技能を習得する | ①柔道整復学・理論編第6版<br>②柔道整復学・実技編第2版<br>③配布資料 | 事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。<br>実技項目については事前に反復練習を行う。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 肩関節骨折脱臼、腱板損傷等の肩部疾患の整復固定法(包帯とテーピング)① | | |
| 第5回 | 演習実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 柔道整復師として求められる固定法実技実習知識と技能を習得する | ①柔道整復学・理論編第6版<br>②柔道整復学・実技編第2版<br>③配布資料 | 事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。<br>実技項目については事前に反復練習を行う。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 肩関節骨折脱臼、腱板損傷等の肩部疾患の整復固定法(包帯とテーピング)② | | |

| 授業の方法 | | | 内　　容 | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|---|---|---|---|---|---|
| 第6回 | 演習実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 柔道整復師として求められる固定法実技実習知識と技能を習得する | ①柔道整復学・理論編第6版<br>②柔道整復学・実技編第2版<br>③配布資料 | 事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。<br>実技項目については事前に反復練習を行う。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 股関節軟部組織損傷時の整復固定法(包帯とテーピング) | | |
| 第7回 | 演習実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 柔道整復師として求められる固定法実技実習知識と技能を習得する | ①柔道整復学・理論編第6版<br>②柔道整復学・実技編第2版<br>③配布資料 | 事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。<br>実技項目については事前に反復練習を行う。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 膝軟部組織損傷の整復固定法(包帯とテーピング)① | | |
| 第8回 | 演習実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 柔道整復師として求められる固定法実技実習知識と技能を習得する | ①柔道整復学・理論編第6版<br>②柔道整復学・実技編第2版<br>③配布資料 | 事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。<br>実技項目については事前に反復練習を行う。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 膝軟部組織損傷の整復固定法(包帯とテーピング)② | | |
| 第9回 | 演習実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 柔道整復師として求められる固定法実技実習知識と技能を習得する | ①柔道整復学・理論編第6版<br>②柔道整復学・実技編第2版<br>③配布資料 | 事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。<br>実技項目については事前に反復練習を行う。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 下腿部軟部組織損傷時(肉離れ等)の整復固定法① | | |
| 第10回 | 演習実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 柔道整復師として求められる固定法実技実習知識と技能を習得する | ①柔道整復学・理論編第6版<br>②柔道整復学・実技編第2版<br>③配布資料 | 事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。<br>実技項目については事前に反復練習を行う。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 足関節周辺の骨折、軟部組織損傷時の整復固定法① | | |
| 第11回 | 演習実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 柔道整復師として求められる固定法実技実習知識と技能を習得する | ①柔道整復学・理論編第6版<br>②柔道整復学・実技編第2版<br>③配布資料 | 事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。<br>実技項目については事前に反復練習を行う。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 足関節周辺の骨折、軟部組織損傷時の整復固定法② | | |
| 第12回 | 演習実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 柔道整復師として求められる固定法実技実習知識と技能を習得する | ①柔道整復学・理論編第6版<br>②柔道整復学・実技編第2版<br>③配布資料 | 事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。<br>実技項目については事前に反復練習を行う。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 足部(中足骨)周辺の骨折脱臼、軟部組織損傷の整復固定法① | | |
| 第13回 | 演習実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 柔道整復師として求められる固定法実技実習知識と技能を習得する | ①柔道整復学・理論編第6版<br>②柔道整復学・実技編第2版<br>③配布資料 | 事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。<br>実技項目については事前に反復練習を行う。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 足部(中足骨)周辺の骨折脱臼、軟部組織損傷の整復固定法② | | |
| 第14回 | 演習実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 柔道整復師として求められる固定法実技実習知識と技能を習得する | ①柔道整復学・理論編第6版<br>②柔道整復学・実技編第2版<br>③配布資料 | 事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。<br>実技項目については事前に反復練習を行う。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 足指部周辺の骨折脱臼軟部組織損傷の整復固定法 | | |
| 第15回 | 演習実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 柔道整復師として求められる固定法実技実習知識と技能を習得する | ①柔道整復学・理論編第6版<br>②柔道整復学・実技編第2版<br>③配布資料 | 事前に教科書(範囲)を熟読しておくこと。<br>実技項目については事前に反復練習を行う。 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 後期全ての復習とまとめ | | |